

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 仙台スイーツ&カフェ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者:副校長 松永 光利

学校関係者評価報告書責任者:学校関係者評価委員会委員長 高木 学

1. 学校の教育目標

教育理念:技能と心の調和

人材育成方針:素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで社会に貢献する人材を育成する。また、美味しくてかわいいスイーツ・カフェを通じて時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する。「全てはお客様の笑顔とありがとうのために」

教育目標:基礎力を高めレシピを自ら創りだせる力を身につける。素直で明るく自ら考えて動ける力を身につける。コミュニケーション能力が高く、お客様の喜びを自分の喜びとして考えられる人間性を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「あきらめない教務」をスローガンに、まずは基本である挨拶・言葉遣い・身嗜み・掃除の徹底指導を行い、これらを継続的に取り組むことにより、その効果として学生のやる気を呼び起こしより良い環境づくり、そしてその先に精進率の向上、検定合格率の向上、退学者数の減少を目指す。

○夢のスケッチブック導入:目標を具体的に設定し、実行計画を立て日誌で振り返っていく「原田メソッド」の教育手法を取り入れたワークブックを各生徒が所有し、実践していく。授業と連動させ、振り返りが可能な設定とする。

○アクティブラーニング導入:学生が授業を受動的に受けるのではなく、能動的学習ができるような授業展開

○三幸学園教育体系化:各行事や教育内容を体系化し、教育効果の明確化。また、学園の教育特徴を明文化した「あきらめない教育(冊子)」を制作し、全教員へ配布・理念と実践の浸透を図る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

・理念の認知はある程度上がったが、生徒・保護者のみならず教職員への浸透がまだ課題と考える。

・あきらめない指導で、基本事項である挨拶・掃除・など社会人基礎力に基づいた事項を主として教員全体で継続的に取り組むようにする。

② 今後の改善方策

・職員会議にて育成像や教育目標に関する共有頻度の強化を図っていく。保護者に対しては、担任からの電話がけにて近況報告だけにとどまらず、理念・目的等と照らし合わせた上での状況を発信する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学校に来て感じるの、グループ全体で挨拶が出来ている。職員も御客様の方を向いて挨拶出来ているところが良い指導の根本だと感じた。新入社員でもコミュニケーション能力不足と感ずることやスケジュール管理が出来ていない所があり、改善することが必要と感ずる。
- ・卒業生、インターンシップで本校の生徒を知っていますが、製造・販売も出来る生徒になっている。他校の生徒とは違いがあり、いらっしやいませの一言が出来て接客まで出来ている。コミュニケーション能力が高いので、接客に力を入れている学校は現場に良い影響力を与えていると思う。
- ・4人のインターンシップを受けていて、本当に就職したい企業にインターンシップに行っていない状況があるのではないかと感ずる。そこで、夢のスケッチブックへの向き方(将来構想)を生徒、教員も意識するようにして欲しい。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- ・教職員研修の強化。コンプライアンスに関する研修も必要。
- ・産学連携など、教育活動を外部にも情報公開を積極的に行うことも必要。

② 今後の改善方策

- ・DVDを使用して、教員のコンプライアンス研修を実施済み。
- ・学校のホームページやプレスリリースを強化し、情報公開に力を注ぐ。
- ・教育活動に関する情報公開に向けて、より良い教育体制の整備を行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・コンプライアンスに関して、判断に迷うようなリスク管理としてはどのような対応かの確認。
- ・先生方の評価について見えづらい点をどのように評価しているのかの確認。
- ・評価アンケートに関して生徒側からも出来るのは良いと思う。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 ③ 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・教育活動の質向上(企業との更なるつながりの強化。外部からの評価を今後充実させていくことが必要。)
- ・教員の資質向上(教育技術・姿勢)。

② 今後の改善方策

- ・教員指導を強化するため、学内教員研修を増やす。また教科間の連携を意識させる。
- ・産学連携を推奨し、今年度以上に様々な企業との連携や地域との連携強化を図る。
- ・企業連携として行っている、実習先アンケート結果を活かした授業の展開を行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・インターンシップに関しては企業により学生の指導方法が違うので、平等に出来た方が望ましい。
- ・企業によってはセクションの違いにより、生徒の希望と相違がある可能性がある。
- ・インターンシップに関して、受け入れ企業の立場も考慮して依頼を行う。
- ・初めて大学生のインターンシップを受け入れてみて、短期間なので何をやってもらうのかを考えるのが難しい。
- ・インターンシップは技術を学ぶところではなく、コミュニケーションや現場の実情を知る場所との意識をしている。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	4	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・卒業後の支援や管理はまだ不十分。
- ・退学率のさらなる低減。

② 今後の改善方策

- ・同窓会サイトの活用や卒業後の資格取得・起業サポートなどを考えていく。
- ・保護者説明会や入学前オリエンテーションで、保護者にも学校生活への理解と支援を求める。
- ・入学当初から学校にくる事が当たり前と言う環境を刷り込み、退学率低減につなげる。
- ・卒業生や企業の方を招いて講話いただき、職業観や就業意識を育てる。

③ 特記事項

就職率:98%(99名/101名中)(前年度 97.2%)

退学率:6.5%(前年度 5.5%)

色彩検定 3 級合格率:82%(前年度 65%)

サービス接遇検定 3 級合格率:93.4%(前年度 81%)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・退学者に対して早期対応を行う事が大事。今後の楽しさを伝えることや早期に異変に気付き声をかけることで、退学者を減らすような取り組みを行ってほしい。
- ・学生寮の退寮者についても、コミュニティー作りが大きく関わっていると感じる。
- ・学園としては責任者許可のもと寮の対応に関して理解を得ている。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・担任と教科担当の更なる連携、スクールカウンセラーの活用強化。
- ・経済的支援の強化。(就職時のサポートなど検討)
- ・学生の健康管理の徹底。

② 今後の改善方策

- ・職員室内での「共有ノート」の活用。学生の異変に気付く仕組み作り。
- ・面談内容によっては担任からスクールカウンセラーとの面談を促す。
- ・Uターン就職希望者には往復の交通費を学校が負担する制度を実施予定。
- ・衛生面からも、毎日体温や体調チェックを始業前に行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・経済的支援として、Uターン就職希望者に対してサポート制度を行うのは非常に良い。
- ・衛生面から、体温チェックなどを毎日行う事は必要。
- ・保護者も最低限の情報は欲しているので、保護者に対して web 発信するようになったのは良いこと。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・インターンシップ実習後にモチベーションが下がる生徒への対応。
- ・防災対策の流れはあるが、実際の本格的な訓練ができていない。

② 今後の改善方策

- ・インターンシップ先へ、インターンシップの趣旨説明やその後のアンケートを実施。また教育効果のある企業の選定を行う。その後学内で分析を実施し、効果の高い実習を実施していく環境整備を行う。
- ・防災訓練の担当が、避難経路の確認や防災訓練を実施する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・職場でも防災確認は必要と認識している。
- ・一般企業でも2週間分の備蓄と防災マニュアルは整備している。
- ・年間2回の訓練、防犯講習に関しても意識している。
- ・防災の意識はしている。お客さを意識することも必要。
- ・生徒の環境を整えるように備品を購入したりしたり、1Fの環境も変えたのは素晴らしい。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・本校の教育理念や特徴を十分に理解している志の高い新入生の確保。
- ・定員が少数な為、毎年募集を年度途中で締め切っている。

② 今後の改善方策

- ・募集活動を通して、本校の方針・特色を伝える。(在校生・卒業生を活用してのイメージ付け)
- ・土地ありきだが、校舎を広げて定員を増やしたい。

③ 特記事項

一般社団法人 宮城県専修学校各種学校連合会が定めたルールに則った募集活動を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・食を総合的に学べると思ったため、他とは迷わずに入学を決めた。
- ・学校の理念はしっかりと伝え、学校のことをよく理解した学生を今後も募集していくべきであろう。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・6年前に中期事業計画が策定され、当該計画はH25年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・監査報告書を参照して財務情報を共有

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

- ・自己評価の実施を行っているが、外部評価を交えた評価が行えていない。

② 今後の改善方策

- ・自己評価を実施した上で学校関係者評価委員会を開催し、外部評価も取り入れた上でより精度の高い改善を実行する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・法令に従った運営がなされているのであれば問題ない。
- ・個人情報は今後もしっかりと管理すべきである。同時に情報公開も含め、透明性も重要である。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

① 課題

- ・地域貢献の強化。

② 今後の改善方策

- ・季節に応じたイベントで地域と連携する。
- ・授業内に準備対応ができるようシラバスを運用する。
- ・地域活動に積極的に参加。
- ・学校施設の有効活用・貢献を考える。(来校型のイベントを強化し地域の方々に使っていただく。)
- ・地域の食材などを活かしたメニューの提案(自治体や農園など)

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・企業に対して納品としての授業があればいいと思う。
- ・お祭りに参加したり、地域とのコラボを行った方が良いかと思う。
- ・寮長が学生の勉強したブーケ等を持って来たりすると寮の飾りにしている。
- ・社会に向けて講座を行うことや、外部に向けて発信してもいいと思う。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・留学生の卒業後の進路先確保の困難
- ・国際交流に対する知識不足
- ・留学生に対する受け入れ体制の柔軟性

②今後の改善方策

- ・留学生母国での起業支援の模索。
- ・入学後に留学生に対する勉強会の実施
- ・留学生奨学金、学生支援の斡旋を行う。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・現在は2名。今後は更なるとりくみを行っていき、受入を強化していく。
- ・アジア圏で日本の専門学校が増えている。また、日本の製菓・調理は人気でもあり今後も増える傾向にあると思う。
そのためには受け入れる環境づくりが必要である。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

①:人材育成方針・目標

⇒まずは基本から伝えつつ「あきらめない・言い続ける・見捨てない」教育を継続する。
浸透度にはバラつきがある状態の為年間複数回の教員全体会議を実施し浸透・共有を図っていく。

②:学校運営

⇒人材育成(教員の資質向上)の形ができてきているので、今後も継続をし、向上を図る。

③:教育

⇒クラス会議や教科会で教員間の連携を強化した。

⇒退学者を増やさない取り組みが結果に繋がらなかった。

28年度は入学時からの意識改革と徹底した継続指導。また、教員全体会議での落とし込みを強化。

⇒アクティブラーニングの浸透を図るための授業見学を行った

④:募集

⇒募集予定人数を集めることができている。